

第15回 新花巻図書館整備基本計画試案検討会議 会議録

- 1.開催日時 令和6年5月14日(火) 午後2時～4時15分
- 2.開催場所 生涯学園都市会館(まなび学園) 3階 第2・3中ホール
- 3.出席者 委員出席者16名 熊谷恵委員、小国朋身委員、山下牧子委員、中村萬敬委員、
阿部賢治委員、高橋和也委員、佐々木史昭委員、前野祐子委員、
福盛田弘委員、林博文委員、新淵ゆかり委員、村田豊隆委員、
千田一栄委員、鈴木秀宜委員、平澤広委員、菅野圭委員
欠席委員4名 堀合範子委員、小原景太委員、菊池桂委員、高原智康委員
専門家1名 富士大学 早川光彦教授
検討会議として意見を求めた者
2名 イーハトープ図書館を作る会、HANAMAKI Book Marks
事務局7名 新花巻図書館計画室 梅原室長、高橋次長、菊池主任主査、市川副主幹、
多田主査、幅下主査、小田島主任
- 4.報道機関 0社
- 5.傍聴者 7名
- 6.会議内容

事務局(高橋次長)

本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。それでは定刻より少し早いですが、皆さんお揃いですので、ただいまから第15回の新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を開会いたします。

会議を始めるにあたりまして、今回からご参加いただく新委員の皆さんの委嘱状につきましては、事前に席に配置させていただいておりますので、ご確認の上、ご査収いただければと思います。次に、本日の資料を確認させていただきます。

本日の資料は、事前にお送りしておりましたが、資料1として「新花巻図書館の蔵書に関する検討案 ver2」、資料2として「新花巻図書館建設候補地選定に係る意見集約方法について」、資料3として「令和5年度 新花巻図書館に関する要望等」になります。

その他、本日の資料として、新しい図書館の検討状況というものと、花巻病院跡地に新図書館をつくる実行委員会の要望書、HANAMAKI Book Marks2023年度アンケート調査結果を配布させていただいておりますのでご確認ください。なお、事前にお送りしておりました資料についてお手元にない場合は事務局で準備しておりましたので、お声かけいただければと思います。

資料の方大丈夫でしょうか。よろしいですか。

また中村委員より、まるごと市民会議で昨年度作成した冊子等を配布したい旨の申し出がございましたので、あわせて配布させていただいております。こちらもご確認いただければと思います。

最後になりますが、本会議につきましては、議事録を作成し公開しておりますので、委員の皆さんにはご発言の際には、マイクを使用させていただきますようお願い申し上げます。

では、開会にあたり、本会議の座長である菅野生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

座長

皆さんこんにちは。4月から前部長の市川に代わり、生涯学習部長を務めております菅野と申します。よろしくお願いいたします。

この検討会議も令和3年4月の第1回から始まり、今回1月以来の開催となりますけれども、第15回目を迎えるということになりました。委員の皆様には、これまでご協力いただきまして改めて感謝申し上げます。もちろん、その間に委員の方の変更もあったわけですが、皆さんが長く検討を重ねてきたところに私も人事異動でポンと来て、いきなり座長というのはちょっと荷が重いと感ずるところもありますけれども、この会議の設置要綱で決まっておりますので皆さんに迷惑をかけないように進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日を含めまして基本計画の策定に向けてまだ何度か会議を開催させていただくという予定になっておりますので、今年度も引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。以上簡単ですが、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局（高橋次長）

それでは議事に入る前にですね、今回、令和6年度初回の会議でございます。また、委員の交代もございましたので、委員の方々に簡単な自己紹介を1人当たり1分をお願いしたいと思います。なお、順番は本日配付しております名簿順で進めたいと思いますが、本日、堀合委員がご欠席ですので、熊谷委員からお願いできればと思います。

熊谷委員

熊谷恵と申します。この事業に関して結構濃く関わっておりますけれども、なかなか進まないの少し疲れが出てきているかなと思っておりますのでよろしくどうぞお願いいたします。

事務局（高橋次長）

次に小国委員お願いいたします。

小国委員

社会教育委員の方から来ております、小国と申します。出身は大迫ですので、山の方から、早池峰の方からですね、花巻の市街地の方を眺めながら、まちづくりをしたいと思っております、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

山下委員お願いいたします。

山下委員

はい。新花巻図書館を考える会の山下牧子です。私はこの地から早池峰を眺めております。同じ大迫生まれです。よろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

次に中村委員お願いいたします。

中村委員

新花巻図書館—まるごと市民会議代表の中村萬敬と申します、どうぞよろしく申し上げます。

事務局（高橋次長）

阿部委員お願いいたします。

阿部委員

身体障害者の副会長をやっております。図書館は2回目ですけども、どうぞよろしく申し上げます。

事務局（高橋次長）

高橋委員お願いいたします。

高橋委員

一般社団法人花巻青年会議所で今年度理事を仰せつかっております高橋と申します。よろしく
お願いいたします

事務局（高橋次長）

次に、佐々木委員になります。佐々木委員申し上げます。

佐々木委員

8番のですね、花巻商工会議所を代表して委員をさせていただいております佐々木史昭と申します。
はい、よろしく申し上げます。

事務局（高橋次長）

前野委員お願いいたします。

前野委員

花巻読書ボランティアネットワーク協議会の代表をしております前野祐子と申します。ボランティ
ア、それから本を愛するものとして、その立場から意見を述べさせていただいております。どうぞよろ
しくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

福盛田委員お願いいたします。

福盛田委員

福盛田と申します。花巻市芸術協会の代表として来ております。図書館に関しては以前からずっと関わっておりますので、県立図書館からの関係もありまして、長らくこの図書館に関しても興味をもって進めております。よろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

林委員お願いいたします。

林委員

学校図書館関係者、湯口小学校の林博文でございます。よろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

新淵委員お願いいたします。

新淵委員

はい、就学前教育課の新淵と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

村田委員お願いします。

村田委員

花巻市博物館副館長の村田と申します。この4月から副館長としてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

千田委員お願いいたします。

千田委員

学校教育課の千田一栄と申します。学校図書館支援員として務めております。よろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

では、鈴木委員お願いいたします。

鈴木委員

はい、昨年度から花巻図書館で館長を仰せつかっております鈴木と申します。どうぞ皆さん今の図書館にもお越しく下さい。よろしくお願いいたします。

事務局（高橋次長）

平澤委員をお願いします。

平澤委員

萬鉄五郎記念美術館の館長の平澤です。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局（高橋次長）

次に本会議のアドバイザーである富士大学の早川先生お願ひいたします。

早川教授

富士大学で図書館学しております早川です。大迫のソフトクリームが大好きで、先月も2回行って食べてまいりました。そしたら、花巻地域の食堂でもそのソフトクリームを売っているのが、先日わかって非常に嬉しい。僕も大迫はなぜか惹かれるようなところだと思って大好きです。よろしくお願ひいたします。

事務局（高橋次長）

次に前回の会議からオブザーバーでの参加となります、イーハトーブ図書館を考える会の瀧さんお願ひいたします。

瀧氏（イーハトーブ図書館をつくる会）

はい、今回が2回目になります。花巻病院跡地に新図書館をつくる会署名実行委員会の代表をさせて頂いております、瀧成子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局（高橋次長）

次に HANAMAKI Book Marks 照井さんお願ひいたします。

照井氏（HANAMAKI Book Marks）

はい。前回オンラインで参加させていただいたんですけど、今回は対面での参加となります HANAMAKI Book Marks の共同代表の照井春風と申します。今回2回目の参加になります。現在は、19歳から23歳のメンバーで活動しており、若者の意見を集めるという活動を中心に行っております。よろしくお願ひいたします。

事務局（高橋次長）

最後に本会議の事務局を担当しています生涯学習部新花巻図書館計画室の職員についてですね、室長の梅原より紹介いたします。

事務局（梅原室長）

皆さんお疲れ様でございます。それでは新花巻図書館計画室の職員を紹介させていただきます。

まずこちらの事務局側から、市川副主幹でございます。

事務局（市川副主幹）

よろしく申し上げます。

事務局（梅原室長）

高橋次長でございます。

事務局（高橋次長）

よろしく申し上げます。

事務局（梅原室長）

幅下主査でございます。

事務局（幅下主査）

よろしく申し上げます。

事務局（梅原室長）

あちら、受付のほうにおります、菊地主任主査でございます。

事務局（菊地主任主査）

よろしく申し上げます。

事務局（梅原室長）

多田主査でございます。

事務局（多田主査）

よろしくお願ひいたします。

事務局（梅原室長）

小田島主任でございます。

事務局（小田島主任）

よろしくお願ひいたします。

事務局（梅原室長）

私、室長の梅原でございます。引き続きよろしくお願ひいたします。

事務局（高橋次長）

それでは、次第に沿って2の議事に入りますが、これ以降の進行にあたりましては、本会議の座長である菅野生涯学習部長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

座長

はい、ではここから私が進行させていただきます。会議を進めるにあたりまして、最初に会議の公開について確認させていただきます。

本会議につきましては、原則公開とすることとしておりますが、皆様、会議の公開ということによってよろしいでしょうか。はい、それでは公開で進めさせていただきます。

それでは事務局より、議題の1「新花巻図書館の蔵書に関する検討案」についてご説明いたします。

事務局（梅原室長）

それでは「新花巻図書館の蔵書に関する検討案について」ご説明いたします。着座にて、説明させていただきます。

最初に資料1をご準備お願いいたします。前回、第14回の試案検討会議においてお配りした資料「新花巻図書館の蔵書に関する検討案」について、オープン時の蔵書数28万冊の根拠についてご質問いただき回答したところ、資料の説明の順番を変えたほうが伝わりやすいのではないかとのご意見をいただきましたので、改めて事務局で資料を見直し、オープン時の蔵書数や収蔵能力など、冊数についての変更はございませんが、説明の順番を入れ替えて、バージョン2としましたので、その資料についてご説明させていただきます。

初めに1ページ目をお開きください。

こちら収蔵能力についてですが、新花巻図書館の収蔵能力を考える際に、初めに利用目標から開架収蔵能力を検討いたしました。次に、全体の収蔵能力を50年間のシミュレーションから検討するために2点の条件を整理しまして、条件の1つ目は、オープン時の蔵書数、そして2つ目は、オープン後の受け入れ冊数ということでシミュレーションしております。

次に2ページ目をお開きください。

こちらの内容については、前回ご説明したとおりなのですが、ほかの自治体の計算方法を参考にしまして、新花巻図書館の利用をどれだけ見込むか、人口1人あたりの貸出冊数目標から必要な開架冊数を求めています。目標値は貸し出しが多い図書館の数値を参考に設定しております。この計算方法を用いますと、10年後には22万7,000冊程度の蔵書が開架に必要なになりますので、開架の収蔵能力を23万冊と設定いたしました。

次に3ページ目をお開きください。

こちらは全体収蔵能力を検討するための資料ですが、まずオープン時の蔵書数を検討する必要がありますので、現花巻図書館の蔵書内容、そして新図書館の蔵書構成の目標をもとに検討いたしました。

現図書館には約21万冊の蔵書がありますが、その蔵書について受け入れ年数などを分析しまして、新館へ引継ぎ可能な資料の精査を行い、情報が古くなっている資料など約4万5,000冊を除籍する予定です。開館に向けて新規購入する資料約8万冊については、新しい図書館の蔵書構成目標や、こちらは資料8ページにまとめておりますが、その目標値となるよう除籍後に不足する資料や、試案に掲載して

いる新しい図書館のサービスを提供するために必要な資料について、現場の花巻図書館等の図書館司書と一緒に考えて積み上げた数字となります。

また、新花巻図書館は中央館として大迫、石鳥谷、東和の地域館の共同書庫の機能を持ちますので、現在3館でいっぱいになっている閉架書庫に余裕を持たせる目的で、共同書庫に3館を合わせて約3万5,000冊を移管いたします。

以上の想定から、オープン時には引継ぎ分の本が約16万5,000冊、新規購入分の本が約8万冊、そして共同書庫分が3万5,000冊、合計約28万冊の蔵書数を検討しております。

なお、この28万冊の中には、現時点では電子書籍を含めておりません。電子書籍については、電子書籍を導入した後で利用が増えていないという既存の図書館の事例などもございますので、慎重に検討を行いまして、現図書館や市が持っている郷土資料などを電子化して、公開していくことも併せて検討していきたいと考えております。

次に4ページ目をお開きください。

全体の収蔵能力を検討するための条件2として「オープン後の受け入れ冊数」ですが、この受け入れ冊数の考え方は、年間の購入冊数と寄贈冊数の合計から除籍冊数を引いた数ということになります。これは表の通りでございます。

購入冊数は、年間購入冊数を開架蔵書数で割った「開架蔵書新鮮度」を参考に算出しております。オープンから10年目までは、開架にある本がなるべく新鮮であるように、毎年2万300冊購入し、11年目から20年目までは1万6,250冊、21年目以降は1万3,000冊と想定しております。

また、寄贈については、現花巻図書館の過去5年の平均寄贈数から、オープン時は2,000冊、それ以降は年間1,500冊程度と想定しております。

そして除籍については、ほかの自治体の図書館における過去5年の平均除籍数から検討しておりまして、5年目までは年間100冊、6年目から10年目までは年間3,000冊、11年目から20年目は年間7,000冊、そして21年目から30年目までは年間1万冊、31年目以降は年間1万2,000冊と経過年数に合わせて増えることを想定しております。

次に5ページ目をお開きください。

こちらが条件1、2からシミュレーションを行った結果となります。オープン時から10年ごとに収蔵能力に対する蔵書数、累計冊数ですが、その割合を見ていきますと、収蔵能力が50万冊の場合は10年後、そして60万冊の場合は20年後には書庫がいっぱいになってしまうということがわかりましたので、新花巻図書館では中央館の役割も考慮しまして、収蔵能力を70万冊と検討しております。

なお、収蔵能力や資料購入数につきましては、今後の資料のデジタル化であったり、市の将来人口、そして財政状況等も考慮しながら引き続き検討を行ってまいります。

資料の6ページ目以降については、前回お配りした資料と変わりませんので詳しい説明は省略させていただきますけれども、6ページ目は、書庫別の配架冊数について収蔵能力とオープン時の蔵書数を検討しておりますし、7ページ目は蔵書構成の目標割合について記載しております。

そして最後の8ページ目、9ページ目については、宮沢賢治に関する資料の取り扱いについて大まかな方針を記載しています。図書館では宮沢賢治に関する資料については、今後出版される資料はもちろんですが、未所蔵で購入可能な資料についても、古本を含めて積極的に収集を行っていききたいと考えて

おりますが、専門的な研究資料や絶版など入手困難な資料につきましては、イーハトーブ館と機能分担を行いまして、連携しながら資料を提供していきたいと考えております。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

座長

はい、前回から説明の順番を入れ替えてということで「新花巻図書館の蔵書に関する検討案」について説明がありましたけれども、皆様の方から質問意見等ございますでしょうか？はい、中村委員お願いします。

中村委員

委員の中村でございます。資料の2ページ目、1-1の開架収蔵能力の②です。1人当たり貸出冊数目標、現状では2022年で3.3冊ですが、オープン後から1年後、2031年で8冊となっており、約10年後に倍以上に増えるという見込みですけれども、この数字の根拠を教えてください。

座長

資料2ページの「1人あたり貸出冊数」の目標のところの質問ですが、事務局からお願いします。

事務局（梅原室長）

はい、こちらのオープンから1年後の貸出冊数の目標は、貸出密度上位、利用者が多い図書館の貸出冊数を参考に数値をだしております。

座長

中村委員どうぞ。

中村委員

かなり図書館職員が努力しないと、オープンから1年後、1人あたり貸出冊数目標8冊を達成するのは無理じゃないかなというふうに私、経験上、申し上げたいと思います。ある意味、オープンから5年後3倍近く9冊となっておりますけれども、ここあまりハードルを高くしない方がいいんじゃないかと思いますがいかがでしょうか？

座長

目標値ちょっと高いのではというご意見ですが、どうでしょうか。

事務局（梅原室長）

目標値が高いのではないかというご意見ですけれども、盛岡市立図書館もこのほどリニューアルして開館しましたが、新しくなった図書館、県内でも一関やいろいろありますけれども、そういった図書館では、開館後に利用者も増えておりますので、この目標の冊数は必ずしも多すぎるとは考えていないところでございます。同じように目指していきたいなと思って設定しておりました。

座長

目標ということで、新しくなればいくらか伸びるのではないかとということで設定しているということでもよろしいでしょうか。はい。他にございますでしょうか。はい、お願いします。

平澤委員

除籍書籍についてお伺いしたいんですけども、情報が古くなった書籍っていう具体的にはどういうものを示せるものがあればお願いしたいです。

座長

はい、除籍についてお願いします。

事務局（幅下主査）

除籍を考えている資料についてなんですけれども、情報が既に古くなってしまっていて、例えば、歴史とかもそうですし、自然科学の分野でもそうですし、どんどんの情報が更新されていて、今はもう新しい内容になっているもの等は除籍をして、新しい、正しい知識が書かれている資料を購入していきたいというふうに考えています。

事務局（高橋次長）

例えば、今縄文時代の時代感がもう発掘調査等々でデータが変わっております。江戸時代などの時代感も変わっておりますので、そのような情報を古い情報が載っているものに関しては除籍の対象にしたというものでございます。

またパソコンだったり、いろんな社会科学の分野におきましても、使い方だったり、AI だったりっていう部分でかなり情報の進捗が早い状態でございますので、それに対応していけるような除籍だったり、本の新鮮度というものを確保したいというものでございます。

座長

情報が更新されたものということでよろしいですか？

平澤委員

はい、わかりました。

座長

他にございますでしょうか。はい、中村委員どうぞ。

中村委員

宮沢賢治が生まれた町として、宮沢賢治に関する資料を収集するというにはおおいに賛成なんですけど、そのなかで、今、花巻図書館の方で宮沢賢治に関する企画展、あるいはイベント等、実際取り扱っておりますか。去年1年間でありましたら教えてください。

座長

花巻図書館長で答えていただいてよろしいですか。

鈴木委員

はい、花巻図書館の鈴木でございます。昨年の資料を確認してはおりませんが、いろいろな形で、例えば、映画会ですとか、そういったイベントの題材として宮沢賢治を取り上げたということはやっておりますが、大々的な企画としては、昨年度はなかったと思います。

座長

昨年は大々的なものはなかったということのようですが、よろしいですか。

中村委員

はい。

座長

他にございますでしょうか。それでは議題1はご質問ないようですので、蔵書については、このような形でよろしいでしょうか。はい。それでは議題2に進ませていただきます。「新花巻図書館建設候補地選定に係る意見集約方法について」を事務局より説明願います。

事務局（梅原室長）

「新花巻図書館建設候補地選定に係る意見集約方法について」ご説明いたします。資料2をご準備ください。

それでは1ページ目をお開きください。

こちらは新花巻図書館建設候補地の検討状況について、これまでの状況の確認となりますけれども、平成29年に市民参画を経て、これまでの新しい図書館建設に関する検討経過や市民ニーズを踏まえまして、新しい図書館の機能やサービスの基本となる方針を示す新花巻図書館整備基本構想を策定いたしました。

この基本構想において、新しい図書館の建設場所は、「市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべき」「市街地再生に資する施設としてまちづくりや都市計画とも整合したものとする必要がある」として、平成28年6月に市街地への定住化を促進し、市街地に都市機能を誘導する花巻市立地適正化計画を策定し公表しましたが、新しい図書館は立地適正化計画の中で示す都市機能誘導区域内に整備することとしまして、候補地を数か所選定したうえで基本計画において定めることとしております。

その後、新花巻図書館整備基本計画策定に向けまして、令和3年度に新花巻図書館整備基本計画試案検討会議、こちら今日の会議ですけれども、それを設置いたしまして、新花巻図書館計画室が案として作成しました整備基本計画試案について、専門的見地から図書館のサービスや機能について、委員の皆さんからご意見をいただき、基本計画試案の整理を進めておりまして、その途中経過と建設候補地については、令和4年度に市民説明会や市内団体、高等学校等において説明いたしました。

建設候補地については、若い世代を中心に花巻駅前のスポーツ用品店の場所を希望する意見が多い一方で、総合花巻病院跡地の場所を希望する意見も多くあったところであり、建設候補地はこの2か所にしぼられてきたと考えておりますが、意見の集約には至っていないものと考えておりますし、市民説明会においては、2つの候補地に建設した場合の事業費がわからないとのご意見があったことから、令和5年花巻市議会12月定例会において、建設候補地ごとの整備事業費やそれぞれの候補地に建設した場合の駐車台数の検討や、イメージ図の作成などの比較できる資料の作成を委託する契約の補正予算を議決いただき契約をしたところです。

工期は令和6年10月15日までとしておりまして、建設場所に関する意見集約については、その調査結果に基づき行いたいと令和5年花巻市議会12月定例会において答弁してきたところです。

では、2ページ目をお開きください。

意見集約の方法についてご説明いたします。令和6年12月議会でも意見集約の方法については専門家の方にご意見を伺うことなどを答弁しておりましたが、市民の意見集約についての考え方としては、できるだけ多くの方の意見を聞いてその意見を踏まえたいこと、手法としては多くの方が発言できる機会を確保できるものとしたいこと、また、市民の意見を集約し中立的な立場で意見をまとめるファシリテーターが必要であり、かつ、建設候補地の比較資料を参考に議論して意見集約し、その意見集約までのプロセスを公開するなど、明確に説明できる状況とする必要があると考えたところです。

そこで意見集約を実施するにあたっては、専門的な知識と経験が要求されるものでありますので、その手法は定例的なものではなく、さまざまな経験を有する事業者の提案を受け、事業を実施する方が優れた成果を期待できると考えましたので、金額による入札ではなく、公募型のプロポーザル方式による選定としたいものです。

なお、公募型プロポーザル方式により選定された手法については、試案検討会議および花巻市市民参画協働推進委員会に報告のうえ、実施したいと考えております。

では3ページ目をお開きください。意見集約の実施にあたっての現時点でのスケジュール案となります。

今後、花巻市議会6月定例会において、意見集約に係る補正予算、現時点では約1,000万を積算しておりますが、そちらを計上しておりますので、議会で補正予算をお認めいただいた場合、花巻市プロポーザル方式運用ガイドラインに基づきまして、6月中旬から公募型プロポーザルを実施後、おおむね8月上旬には事業者を選定することを予定しております。

選定した事業者と契約を締結した後に、試案検討会議や花巻市市民参画・協働推進委員会で報告しまして、その上で10月から12月にかけて意見集約作業を進めていきたいと考えております。

次に4ページ目をお開きください。

こちらは参考として、公募型プロポーザル方式がどのようなものかということのご説明をさせていただきます。

地方公共団体が行う発注は不特定多数の参加者を募る調達方法である「一般競争入札」が原則とされておりますが、この原則を貫きますと、調達の準備に多くの作業や、時間が必要となり、結果として当初の目的が達成できなくなるなどの弊害が生じることがあります。

このため「指名競争入札」や「随意契約」による調達が例外的な取り扱いとして認められており、随意契約を行うために業者を選定する手法として、プロポーザル方式があります。

花巻市では必要がある業務の契約締結にあたりまして、プロポーザル方式により契約の相手方となる候補者を選定する場合の手続きについて、平成31年3月29日に花巻市プロポーザル方式運用ガイドラインを制定し、必要な事項を定めており、本件については、価格のみならず、実績、専門性、技術力、企画力、創造性等の価格以外の要素を含めて総合的に判断する必要がある業務でありますので、花巻市プロポーザル方式運用ガイドライン第3条第1項に定める各種計画等の調査研究、企画立案に関する業務に該当することから、プロポーザル方式による業者選定としたいものです。

なお、花巻市プロポーザル方式運用ガイドラインにおいて、プロポーザル方式とは、契約の相手方となる候補者を選定する場合において、一定の参加資格要件を満たす提案者を公募し、または指名し、当該業務に係る実施体制、実施方針および技術提案等に関する企画提案書の提出を受け、原則としてプレゼンテーション及びヒアリングを実施した上で、当該提案書の審査および評価を行い、当該業務の履行に最も適した候補者を選定する方法としております。

なお、プロポーザル方式はこの場合においては、公募型を原則とし、指名型は業務の性質または目的から提案者の範囲が限られることが明らかである場合等にのみ行うことができるものとしております。

また、同ガイドラインにおいて、プロポーザル方式によることができる業務とは、先ほども申し上げましたが、実績、専門性、技術力、企画力、創造性等の価格以外の要素を含めて総合的に判断する必要がある業務で内容はこちらに記載しております5つの内容でございます。

説明は以上です。よろしく願いいたします。

座長

はい。現在、新図書館建設候補地の比較調査業務をお願いしているところですが、それが10月までかかるということで、その結果を受けて、改めて市民の意見集約を図りたいということでそれにつけて専門的な知識を持った事業者意見集約の仕方を提案してもらいたいということで公募型のプロポーザル方式をとって進めていきたいということで、公募型プロポーザルとは何かというところからあわせて説明してもらいましたが、皆さんの方から質問や意見があればお願いいたします。

佐々木委員

商工会議所の佐々木ですけれども、あまり資料もよく見てなくてですね、ちょっと基本的なことから教えていただきたいんですけども、今現在行われている候補地の比較調査業務の結果が出るのが10月15日となっておりますが、これがどういうものなのか見ないで何かやる必要があるのかどうかがよくわからないということと、3ページ目のスケジュール表を見ますと、結果が出たものとのスケジュール表の連動性がよくわからないのと、何のために公募プロポーザルをやる必要があるのか、公募プロポーザルはわかりますけれども、図書館の選定のためになんでこの話を今されるのかよくわかりませんのでちょっと説明していただきたい。

事務局（高橋次長）

私の方から説明させていただきたいと思います。佐々木委員おっしゃった2つの委託事業の関係性でございますが、現在行っております、議会でもお話しご説明させていただきましたが、両候補地の例えば、建設場所の条件だったり、どういう場所に建てる、どういうところに建てるのかの配置図やイメー

ジパースというような比較できる資料を作成している状態です。先ほど室長が話したとおり、駅前の方と病院跡地の2つございますので、両方の条件を全て洗い出しまして、そちらの比較資料を作っている状態でございます。

今回皆様にご説明させていただきましたプロポーザル方式で何をするかという部分ですけれども、やはりデータだけ出てまいりましても、市民の皆様にもどのような方法で意見を集約していくかという部分について、私達でできる部分とできない部分がございますので、そのファシリテーター、先ほど話があったとおり、プロの専門家のファシリテーター等をお願いしまして、意見集約作業の方をお願いしたいなということでございます。プロポーザル方式でございますので、いろんな事業者を公募いたしますのでいろんな事業者さんの方からいろんな方法が多分提案されるかと思えます。ワークショップの方がいいとか、いろんな市民説明会があった方がいいとかっていう方法が提案されると思えますので、それをプロポーザル選定委員の皆様を選定していただいたうえで、一番、花巻市の図書館の建設候補地の意見集約をするために適した方法を検討したいというものでございます。

以上でございますが、よろしいでしょうか？

佐々木委員

まず、10月15日に比較調査の結果が出た段階で、それをよく精査すると、ある程度見えてくる姿が出てくる可能性があるのに、それを見る前から、このようなことを考えているということがあまりよくわからないということと、いわゆる、例えば建設コンサルタントだとか設計事務所のようにそれを生業としている業者が一般的に世の中に存在をして、そういう会社の中から公募プロポーザルに応募してくる団体が想定されるような業務であればいろんなことが考えられると思うんですけど、今回は市民の意見集約のためにどっかの業者を使うっていうと、我々どういう業者が出てくるのかっていうのは、あるいはどの程度の実績がある、適性のある業者が出てくるのかっていうのはなかなか想像しにくいんですけども、その選定においてもですね、片側をひどく推すような業者のみが、例えばですね、業者として出てきたりとか、そういうことも出てくるかもしれないのに、意見集約のこのアイデアが出てきたのはなぜですか。これは最初からもしそのことが想定できたのであれば、調査業務の委託の中から、ある程度案を絞り絞るような形で、専門家が見るとこちらの方がいいんじゃないかみたいなアウトプットが出てきそうな発注の仕方はできなかったのでしょうか。

事務局（市川副主幹）

はい、おっしゃる通り、調査をする業者をお願いしていますので、調査をして比較する資料を作ってもらって、なおかつ意見集約までその業者がやるっていうことはあったと思います。最初からそのように頼むという方法もあったかと思いますが、今お願いしてるのは二つの候補地の事業費を出してもらって、あとはイメージ、こっちにつくったらこんな感じになるとかですね、駐車場も含めてこんな図書館ができるというパース、絵としてわかりやすく作ってもらうということで議会でも説明して、それで契約をしているのが10月までのものでございます。

そうした中で、今度これを意見集約、つまり市民の間でまだ意見がまとまっていないというのはこれまでもお話ししていたなかで、一方にまとまるっていうのもなかなか難しいと思います。これまでお話ししてる通り、たくさんの皆様のご意見を聞いて、ある程度納得がいくような合意形成を図っていった

らと考えてるんですが、これまで私達事務局が説明をして市民説明などもしてきている中で、やっぱりいろんな意見がありまして、市が直接説明するのではどうも納得をしていただけないようなケースもあったと感じております。そうした中で、我々が行うのではなく、きちんとした事業者の方で、誰かファシリテーター、まとめてくれる人に委託をして、市民の意見を集約する方法を提案していただきたい。そういう方法がないかというのを考えてみたところで、ある程度事業者の皆さんにお話を聞いて、そういう実績がある事業者もありますので、お話を聞いた中での見積もりで、実際1,000万必ずかかるわけではないです。事業費として1,000万を準備いたしまして、その中で方法を提案していただいて、やり方がいろいろあると思います。我々思いついたのは、市民会議とか例えば市民の懇談とかですね、対話型の会議というのを今までもお話してるんですが、全国いろんな例を見ればありますので、そういう提案を期待しているところです。もちろん、その事業者が一方の場所に偏るような事業者であれば、選ぶ段階でそちらを選ぶということはないと考えています。やはり中立的に市民の皆さんの意見を集約するような議論を専門的な事業者に委託をして方向性を示していきたいと考えたものでございます。

佐々木委員

何回もすいません。花巻市内の市民が使う図書館の場所の決定をこれだけ散々ですね、市民の委員の方だとか関わってもらってきて、また最後にコンサルタントに背景を整理してアウトプットが出てくるのに、それも見ずにどういう会社が出てくるかわからない業者に意思決定を丸投げするというそのスタンスは私はどうかとを感じる。その人たちが花巻に関わりのある団体とか企業だったとしても難しいと思うし、全く外がよくわからないような方が来ても、それもまたどうかと思うというのが、これだけ2年3年やってきた立場の偽らざる感情でございまして、ちょっと私はどうかかなと思って感じております。正直な意見です。

事務局（市川副主幹）

気持ちはわかりますが、皆さんそうだと思いますが、時間かかってきてやっぱり場所以外については、蔵書もそうですし、皆さんのご意見を聞いて、ほぼできつつあると思っておりまして、あとはその場所を決めれば基本計画が出来上がるというような状況とっておりました。我々、私も長く市民説明などもしておりますし、いろんな場所いろんな団体とお話しておりますが、やはり場所を決めるっていうのは非常に難しい状況になってるっていうのはご存知かと思います。やはりあえてというに変ですけども、そういう専門的な方を入れて調整をしてもらおうっていうのはどうか、事例としてもそういう例がありますので、少し時間もかかりますしお金もかかりますけれども、こういう方法でやってみるのはどうかというような提案でございまして。

佐々木委員

どのあたりの業者さんが、あるいは株式会社なのか、何か団体みたいなのところなのか、どういうところが入ってくるんですか。

事務局（高橋次長）

想定される業者としましては、例えば過去に公共施設の建設場所で市民説明会をなさったようなコンサルさんだったり、ワークショップを実施しているNPOさんだったり一般社団法人さんは想定される

と思います。室でいろいろな全国の事例を調べましたので、図書館や道路、学校という部分で、建設場所という問題については、やっていらっしゃる事業者さんが多数いらっしゃいますので、そのような事業者さんからある程度の方法論などを提案いただければと思いますし、NPOさんや一般社団法人さんも同様と考えております。

佐々木委員

はい、ありがとうございました。皆様のご意見どうぞ。

前野委員

ボランティアの前野です。結局どっちに建設場所を持っていくかっていうことに関して、それぞれの場所でのシミュレーションを出していただくっていうこと、それが10月にあるわけですね。すごい思うのは、前回も言いましたけれど、花巻市がどういう方向にこのまちを持っていきたいのかっていう全体的なまちづくりの構想、少子化叫ばれて、人口がどんどん減少して、高齢化社会もどこもそうなんですけれど、そういう社会の中で、花巻市って一体どういうまち作りをして人を呼び込み、若者の定着させ、そして人口減少に歯止めをかけ、そして将来的にどういう方向に向かっていくのかっていう、そういうビジョンが見えてこないと思うんです。何か、どう考えても。例えば総合花巻病院跡地に、自然の中に憩いの場所として、例えばそういう良きものを大事にして、文化的なそういうふうな場所を作り、そして花巻らしい宮沢賢治の歴史あるそういう土壌をそうやって培って行って、それで花巻市っていうまちをそういう方向性に持って行って、その中で若者たちを呼び込み、そして良き花巻市に育て上げていくのか。それとも、新しいそういうまち作りを目指して、今度駅新しくなりますよね。新しくなる駅とともに、駅に新しい図書館が中央図書館としてあり、そしてまち全体をその駅中心として、上町であったり、市役所の周りであったり、そういうところも活性化させ、そして例えばその花巻病院跡地には、花巻図書館ではなく、そういう市民の憩いの場として、例えば次世代の人たちも子供たちも年を取った人たちも一緒に憩えるような、そういうふうな施設をつくってそっちの方は緑化的なまちづくりにしていくとか、何かそういう全体的な構想が全然見えてなくて、その都度その都度、あっちこっちにいろんなものを建てて、それで終わりではなくて、やっぱり全体的に考えていかないと、まち全体がちぐはぐとか、いいところとそうでないところっていうのが分断するような形では絶対よくなくて、ひと続きの花巻市として考えるべきところをもっとこう考えられるような何かそういうふうなものにしていただきたいと思います。なので、例えば新しくそういうふうなアドバイザーとしてそのプロポーザル方式を運用して、外からの人がいろんなそういうふうな意見のまとめ役に入っていたときに、本当にそういう花巻の将来をちゃんと見据えて、皆さんの意見を吸い上げて、方向性としてこういう方向性に持っていけば花巻はとて良くなるっていう、そういう構想まで持っていける方々で、そしてなおかつ集約していくときにも、皆さんから出された意見に対して真摯にそういう想いを持って答えていただける方々なのかどうか、何かそういうところまでちゃんと考えていただきたいと思います、以上です。

座長

ありがとうございます。まちづくりの話をしてもらいました。

事務局（市川副主幹）

以前もそういうお話いただいて、当然そういうところも考えながらやってきたわけでありましてけれども、今回それなりにプロポーザル、提案を受けてですね、それは市外とは限らず、市内の事業者もあるかもしれませんし、そういう中で、しっかり審査をして、きちんと調整できる可能性がある業者を選んでやった方が、場所を決める中で、そのような市全体についてもいろんなご意見もあるかと思えます。市民の皆さんの意見などもどうやっていくかっていう方法も含めてより良いものにするために、こういう方法がいいのではないかと我々は考えたところでありまして、ご理解いただければと思います。

中村委員

委員の中村です。意見集約を公募プロポーザル方式で集約するという方法ですが、いわゆる試案検討会議じゃなくて、計画室は意見集約に当たっては、第三者に任せるという意味ですか。それとももうギブアップですか、市民の意見を集約することにつきましては。なんかそういうふうに見えてしょうがないんですよ。職員の方々に苦言を提するわけではございませんが、やっぱり市民の皆さんに1人1人意見を聞くとか、あるいは駅に建ててほしいという意見もあるでしょうし、病院跡地に建ててほしいと、その方々との意見交換とか、意見集約、そういう作業をやってはじめて、市役所の仕事が成り立つような感じがするんですけども、それを第三者の業者に任せて1,000万円をかけて意見集約するという方法は、私は元市役所職員としては反対です。ですからある意味、確かに二つの場所にわかれてるんですけども、皆さんがやっぱり一つの方向に向かえるように、先ほどある委員の方が言われたとおり、花巻市のまちづくりをこういう方向に持っていきたいとか、そういう具体的な方法をめぐって職員の皆さんの中でも議論してほしいし、我々とも議論してほしいわけです。そうでもって、新花巻図書館の整備計画はこうですよっていうことを改めてお示ししてほしいというのは、私ども委員としての希望です。ということではっきり言って公募プロポーザルは撤回してほしいと思います。

座長

反対意見でしたがどうでしょうか。

事務局（市川副主幹）

決して私達何もやらないと言ってるわけではなくて、こういうふうには試案検討会議でもご意見を聞いてやりたいと思ってますし、もちろん今やっている調査、双方の場所の事業費の比較等についても、これまで私達やってきて、市民説明をしてきた段階でも示してきました。ただし、それについていろいろ疑念を持ちの方もありまして、そうした中で事業者にもきちんと精査をして調べてもらった方がいいんじゃないかということで、委託してやってもらってるわけでありまして。もちろん私達もこれまで市民説明をしていますし、各団体からも意見を聞いてきております。市内の高校6校にも全てに行き話をお話を聞いたりしてしております。それについては引き続き当然、やっていくわけでありまして、もう私達やめますというわけではございません。そういう中で、このように調整してもらおうということを経済的な方にやってもらった方がスムーズに進むんじゃないかと考えたところで、少し時間とお金はかかるかと思いますが、そういう方法で進めていきたいというものですので、ご理解をいただきたいと思えます。

中村委員

先ほど市川さんに説明していただいたんですが、第三者に任せるっていうか、市役所職員としてどう思いますか、それ。正直言って、私ども、古い話で恐縮なんですが、私も花巻図書館に勤務したことがあります。合併した当時だったんですが、やっぱりみんなの力を合わせて良い図書館、花巻図書館、そして石鳥谷、大迫、東和図書館を作ろうという活動したわけです。当時はいわゆる図書館の利用システムが違っていたので、それを統一するとか、あるいは、例えば花巻図書館で借りた図書を石鳥谷とか大迫、東和でも返せるような形にしたわけです。確かに対立はしてるだろうけれども、逆に言えば、一つの考え方に固執してるから絶対市民の意見は聞きませんというふうに聞こえるわけですよ。時間と金かけて、最終的にどっかに持ってこようという意図があるんじゃないですかね。そう思えてしょうがないんですが。今まで確かに市民の皆さんの意見を聞きます聞きますと言ってますけども、じゃあ終着地点はどこでしょうか。お願いいたします。

事務局（市川副主幹）

ちょっとわかりませんが、第三者というか、そういう事業者に市民の意見集約をお願いすると、その事業者が決定するわけではありません。そういうわけではなくて、市民の意見を集約する方法を提案していただいてその中で良い業者をお願いして、一緒にやっていきたいというものです。我々どっちがいいって決めているわけではないですよ。それはもうご承知のとおりだと思いますが、それについて十分ではないのかもしれませんが市民から意見を聞いてきました。説明会も15ヶ所とネット上でも行ってきましたし、各団体からも意見を聞いてきました。そういう中でやっぱり集約できなかったっていうのが今の段階ですので、それをまた新たな手法を、外部の方にアドバイスをいただいてやっていく方法が結論を導く最善の方法ではないかと考えたところですのでご理解いただきたいと思います。

座長

今比較調査をお願いしてますけれども、それは候補地を絞り込むということではなくて、こちらに建てればどうなりますよ、こちらに建てればどうなりますよ、という判断できる資料を作ってもらってます。例えば、AとBがあればAの方が事業費高くなると。じゃあBかというそういう問題ではなくて、いろいろ見ていただいた中で皆さんにまたそれをもとに検討していただくと。そのときにこれまで市が絡んでいろいろ説明会等をしてきましたけれども、先ほど中村さんからどこかの方向に導いていくみたいな話が出ましたけれども、事業者さんよりも市がやった方が、そういう感じで捉えられてきたという経緯もありますので、あくまで中立的な形で市民の方々に判断材料を出して、話し合っていたり検討していただいたりして意見を集約していく。あくまで、結論は多分そうやってやってもAかBか出ないと思います。だからそれも市民からあがってくるのは、それこそ市であったり、議会であったり判断する材料を出していただくというような形のものになっていくと思います。ただわからない事業者に頼んで、その業者がどこかの方向に持ってくんじゃなくて、逆にわからない事業者、花巻と関係のない、関係あってもいいんですけど、事業者さんがABどちらにも関係なく中立的な立場で意見を集約していくということをお願ひしてというのが、もうそろそろ必要なんじゃないかと考えているところなんですというのが事務局の考え方です。

山下委員

今までも市からの市民説明会を各地でやりましたけれども、両方のいろんな条件を出して、その中でだいぶ細かく説明会を市民に知らせてきたと思います。それからそれを踏まえて、まだまだ両方のそういう細かいいろんな差とか違いとかそういうところがもっと細かく皆さんに説明するっていう必要性がありましょか。市民説明会で一時間ちょっとくらいでそういうところをわかってもらえる説明会になるでしょうかっていう疑問もありますし、それから市民の意見をこういうふうにして、もう少し集めるとか、何かそういう方法を業者に頼むっていうことなんですけど、中立的立場っていうこの中立的立場の業者さんなりを選ぶっていうのもまた大変なことじゃないかと思うし、それからよしんば答えが出たとしても、皆さんはそれで納得できるでしょうかね、外部の方のそういう調査結果とか、とういうことに対して、または承知でなくてもまあお金を出して、そういう業者が出した答えなんだからっていうふう皆さん納得する…

座長

あの、事業者が答えを出すんじゃなくて、事業者さんは市民の声を集めたものを提出していただくということです。

山下委員

皆さんの意見を集約、両方示すってことですか。

座長

両方出れば両方になると思います。もちろん一つになれば一つ、ただ市としてもそういう結果っていうのは考えにくいなというところがあります。

山下委員

それで本当に市民は業者さんがこう示したからっていうふう…

座長

事業者さんが示すのではなくて、先ほどこれ以上何か材料があるんですかっていう話でしたが、もう少しこちらに建てればどうなるというイメージ図を作ってもらったりして、もう少し駅と花巻病院跡とどちらに建てるとどうなるよっていうイメージしやすいような、また事業費の比較とか駐車場どうなるかっていう比較とか、わかりやすいような判断材料を今作ってもらうという作業をしていますので、その判断材料を持って、その事業者が決めるのではなくて、こういった意見で話し合われましたという検討結果を報告してもらうというものです。

熊谷委員

熊谷と申します。私はこれを拝見したときに業者さんを入れて、それがどっちの意見あそこかということ業者さんに決めるというふうには取りませんでした。結局、今もう本当に長いこといろいろと話をし

ながら、きっと市民の方たちもわからなくなってるんじゃないかなと思います。例えば、市役所の方でこうでこうでこっちはこうです、こっちはこうですっていうと変に勘ぐって市役所の方ではあそこに建てたいんだと思う方がいないわけではないと思うんですよね。それで第三者の方が、今までの私達のしてきた意見やいろんな方たちの意見を聞いたものを集約して、中立的な立場でこちらに建てればメリットはこうですよデメリットはこうですよ。こちらはこうですっていうことを市民の人たちが見て、わかるように、もうぼやぼやしてるんでなく、はっきりとわかるようなものをつくれということをおっしゃってるのではないかと、私はそのように取りましたが、どうなんでしょう。

座長

それを今お願いして作ってもらって、それを判断材料として市民の皆さんにお見せします。

熊谷委員

そうですね。そのようにとらえていました。

照井氏 (HANAMAKI Book Marks)

先に挙げられていたのにすみません、着席して失礼します。今熊谷さんがおっしゃったことは私もそうではないかなと思うんですけど、今ちょっと混乱してる部分があるかなと思ってまして。第三者というかその委託してる部分が多分今一つあって、そこはその多分言葉的な部分だと思うんですけど、中立ではなく客観的にという言葉を使った方がいいのではないかなと私は思いました。中立という場合だとやっぱり駅前か総合病院跡地かっていう二極化していて立場が対立して行ってその中立にいる場所を選ぶっていうのは聞こえ方になってしまうと思うので私的には客観的に今委託をして、このような条件であれば駐車台数がこのぐらいで、建設費用がどのぐらいかかって、例えばそれに関して、例えばそこに行くまでの道を広げるのがどのぐらいでみたいな費用が、客観的なデータとして出るんじゃないかなと思っている、その部分が今10月15日に出していただくお願いしている業者っていうのがまず一つあって、今の議題である公募プロポーザルに関してはその建設地の選定をしてくれるというよりは、その意見を集める方法に関してまとめてくれる企業というか、業者さんを選ぶための公募プロポーザル、というその二つの団体がごちゃごちゃになってる方がいらっしゃるかなと思ったので、今市の方で選ぶっていう話をしているのは、公募プロポーザルしますよ、その団体は客観的に説明のデータを見て、こういうデータがありますよっていうのを並べたその意見を見た上で、市民がどう考えるか、その考えた意見をどうまとめていくかのまとめる方法を提案してくれる業者を選定する方法が公募プロポーザルだと私は認識しているんですけど、私の中でもちょっとごちゃごちゃして説明があれなんですけど、こういう認識で合っていますでしょうか。

座長

客観的という良い言葉を使っていただきましたけど、間違いはないでしょうか？

事務局 (市川副主幹)

はい、そうです。今やってる調査とは別に意見集約をする、その調査に基づいて資料が出てくるわけですけども、それに基づいて市民の意見集約を図っていく事業者を選定したいというものですので、

その業者に全く任せてしまうわけではないですよ、我々も当然一緒にやるわけですけども、そういう事業者を選定して一緒に意見集約をしていきたいとというものでございます。おっしゃる通りです。

照井氏 (HANAMAKI Book Marks)

はい、ありがとうございます。その中で例えばワークショップをやるとなったときに、市が取りまとめて行った場合、例えばこう市の考えで、例えば JR 駅前だとか花巻病院跡地が優勢になるようなメリットが例えばどちらがすごく極端に多くなっていったときに、そういうどちらかに偏った時点で市が何か考えてるんじゃないかっていう意見が出てきてしまうから、この公募プロポーザルという方式に至ったのではないかなと私は理解をしているので、そこにかかる費用というのはもちろん大きいとは思いますが、できるだけ抑えてというか、他に必要な部分があればそちらに回していただいて、この方式に関して私は賛成といいますか、裏の思いも何となくわかりますので、裏の思いというところとちょっとあれなんですけど、私達自身も若者の意見を集約したときに、駅前が多いんですけど、実際は駅前を利用している学生が多いからっていうだけなんですけど、実際データとして見れば、何か駅前をすごく推している、あの花巻跡地に反対しているように見ると、私達も言われてしまうことが多いので、すごく市の立場としてはわかる部分があると思うので、第三者っていう立場で選ぶってプロポーザル方式に関してはすごくいいやり方ではないかなと思います。すみません、意見でした。

佐々木委員

実現可能かどうかというのはまた別の話なんですけれども、私はどのような会社が新たな提案をしてくるのか、二つの案を一つにどちらかに、二つには図書館立てられないので、決めようとするとうまく同じ話になると思ってまして、どちらの方もやっぱりなかなか納得できない状況になるだろうということを考えてですね、繰り返しですけどできるかどうかって話ですけど、10月の段階で客観的な資料が出てきたのを市民の方々にもうそのまま、ある程度は見やすくしながらも見ていただいた後、投票するのがいいと思います。もう裏表なく多数決で決めちゃう。1,000万円の予算で市民の投票を実施してくださいNPOさんってやったら、うちやりますって会社出てくるんじゃないかと思うんですよ。多少その選挙とは違うんで、ガチガチにやらないけれどもある程度の住民に届くようにして返信してもらうようにして数えるってことをやったら1,000万でもしかしたらお釣りが来るんだとしたら、もう絶対多数が病院跡地の方がこれだけ多いならしょうがないとか、なんか納得感が出るのではないかなと。私は究極の民主主義は選挙だと言うように感じまして、ちょっと繰り返しちゃいますが、業者さんもうしようもないと思うんです、結局。プロポーザルの業者さんも結局は民間人がやることなので片方の方に納得してもらうためのワークショップ何回やったって…あ、違うんですか。すみません、とりあえず自分の意見だけ、私はもう多数決がいいと思います。

座長

投票ってというのは任意の投票ですか、住民投票ですか。

佐々木委員

住民投票です。

事務局（市川副主幹）

そういう方法も提案はあるかもしれないですよ、公募プロポーザルしたときに。例えば住民から何百人とか選んで投票をしてもらおうとか、ただしおっしゃっている住民投票、いわゆる一般的な住民投票になるとまた条例をつくるが必要になります。

佐々木委員

住民投票までの精度はいらないだろうけど。

事務局（市川副主幹）

そうすればそういう方法をプロポーザルで、専門性を持った方からいくら人数をやれば良いというような提案を受けたいと思ってます。例えばアンケートを取るとかっていう提案もあるかもしれません。そういう中で最も公平にというか市民の皆さんの意見をたくさん聞けるような方法で意見をまとめることができるような方法をやはり公募して専門家からの提案を聞きたいというものです。住民投票となるとやっぱり時間もかかるしお金ももっとかかってしまいます。そういう事業者の方が経験あると思えますし、提案をしていただく。それで1,000万という予算をもって議会に提案したいと思ってるんですが、必ずしも1,000万で提案とは限らないです。例えば100万でもいい方法を提案してくる業者があるかもしれませんし、それはいくらというわけではないです。ただやはり、これまでもたくさんお金をかけてきてますが、予算を準備して意見の集約についても良いアイデアを出していただきたいというふうに考えているものです。

座長

今やってる調査結果を使って判断していただく機会を設けて意見集約をしていきたいなというところで考えておりますが、他に何かございますでしょうか。

佐々木委員

そうしますとプロポーザルを受けたときの業者の決定は当然市ですよね。担当室でやるということですか。

座長

事務局、審査の方法について説明をお願いします。

事務局（市川副主幹）

審査については、プロポーザルガイドラインで市で定めているものがありますけれども、我々が決めるのではなくて副市長とかですね、あるいは民間の方、社会教育委員の方や市の市民協働参画委員のメンバーの方にも入っていただいた方がいいのではないかなと思っておりますし、そういう一般の方も入った中で決めるというような方法です。我々は入らないです。生涯学習部長も入らずに、副市長、総

合政策部長が入る形を考えておりますが、あと民間の方を複数名という形の中で決めたいと考えております。

中村委員

中村です。いろんな意見が出されましたが、やっぱり市長さん始め柔軟な考え方になってほしいというふうに思います。ある意味、一つのことにとらわれてるから、それを押し通したいということで、プロポーザル方式とか、先ほどの12月議会で認めてもらった計画の比較検討材料をコンサルタントに委託するとか出てくるわけで、そういう点でこれ以上話も無理だと思うんで、私は公募プロポーザル方式は反対だということで結構です。以上です。

事務局（市川副主幹）

市長に柔軟な考えになってほしいというご意見ですけども、何か柔軟じゃないというところがあるんでしょうか。

中村委員

例えばですね、すみませんこういう言い方して大変申し訳ないですが、イーハトーブ図書館をつくる会が署名を持っていったときに市長さん直接おいでにならなかったんです。なぜ当時生涯学習部長さんが受け取ったかよくわかんないんです。正直言って市長さん宛に出した要望書のはずなんですが、3,000人ほどの署名をですね、それなぜ市長さん直接受け取られなかったかよくわかんない。そういうことでかなり時間稼ぎにしか見えないっていうか、JRのコンサルタントを頼んでやってるとか、そういうのを聞いていますし、いろんな噂がたっておりますよ。だから、ある意味ね、はっきり言って、市の方でこういうまちをつくりたいと、花巻市として将来。お年寄りから子供たちまで含めて、産業、教育あるいは福祉、いろいろ防災とかですね、そういう総合政策に渡ってこういうことをやりたい、こういう花巻市をつくりたいから、皆さん協力してくださいっていう姿勢があればいいと思ってるんです。ところが、そうじゃなくて、そういう考え方を示されない。ただ単に、駅前がいいということだけしか我々は聞かされておりません。確かに人の賑わいとかっていう話もありましたけど、図書館を駅につくったところで、人の賑わいができるわけではないと思いますし、むしろ商業施設とかデパートとか、そういうのを誘致した方がいいんじゃないでしょうか。

座長

そういう市民の方のいろんな意見を改めて集約しようとするものです。いろんな噂が飛び交ってるとかというお話をこちらでも聞いておりますので、そういう危険が生じないように客観的に事業者さんに考えていただくという方法をとりようというものです。

事務局（高橋次長）

日程調整をした私から説明いたします。実はあの時は瀧さんもいらっしゃったんですけども、日程について11月27日という指定が実はございました。そのとき時間帯を何度か調整させていただきましたが、どうしても市長の日程が取れなかったものですから、生涯学習部長ということで当時の市川の方が

お受けさせていただいて、お話を1時間ほどであったかと思いますが、お伺いさせていただいております。その内容については当然ですが、市長の方にも報告しておりますので、ご理解をいただければと思います。当然市長も受けたいという話はあったんですけどもどうしても別用が事前にあったものですから、その部分はご了承いただければと思います。

瀧氏（イーハトーブ図書館をつくる会）

先ほどの署名ですけれども、市長さんが受け取りの際いなかったというのはすごく残念なことだったんですが、市川部長が丁寧に受け取っていただきました。これはありがたく私達も提出することができました。数としては、4,730筆なんですね。現在進行中です。今約8,000筆近く。全国です、全国から集まって署名されてます。毎日1件1件署名を集めている方もいます。これは私達の仲間ということではないですが、自覚的にそういう方法をとっている方たちがいます。それはなぜか、やはり花巻にみんなにね、愛される図書館、20年後30年後、この花巻にこんなに図書館ができてよかったね、これが一番私達が望む方法なんです。それで今、署名運動をやりました。それをまた機会がありましたら提出する予定にはなっております。もう一度言います。20年後30年後花巻の中央市民図書館、これをあそこに私達は花巻の病院跡地、これ一番最初から話をしています。やはりあそこしかないってこと。

座長

すみません、瀧さん。意見集約の方法についてはどうお考えになりますか。

瀧氏（イーハトーブ図書館をつくる会）

はい。そういうことも踏まえてですね、私達はそういう運動をしておりましたので、何とかよろしくお願ひいたします。

座長

市が進めようとしている意見集約についてはどのようにお考えですか。

瀧氏（イーハトーブ図書館をつくる会）

そういう意見集約についてもですね、今検討されている段階とその予算もあるでしょうけれども、期限もあるでしょう。そういうところの中で、やはり私達も聞かないというわけではなくて、そういうふうなことを踏まえてその辺の意見もいろいろとかみ合わせてやっていきたいなというふうに思っております。はい、以上です。

座長

ありがとうございます。

ここで多数決で決めるというものではないんですけども、ご意見おっしゃっていただけてない方もいらっしゃいますが、反対という方、他にございますでしょうか？

(反対の発言をされていた方が1名挙手)

座長

はい、ありがとうございます。

いろいろご議論ありましたけれども、提案いたしました意見集約方法について、進めていくということでもよろしいでしょうか？

はい、それでは準備を進めまして、先ほど申し上げましたように、予算がございますので6月議会に補正予算という形で提案することを進めさせていただきたいと思えます。

それでは、次の議題3のほうに進みたいと思えます。概要資料の「新しい図書館の検討状況について」ということでございます。事務局より説明願います。

事務局(梅原室長)

では、本日お配りしました、A3二つ折りの「新しい図書館の検討状況」という資料をお手元にご準備をお願いします。

こちらは、新花巻図書館整備基本計画試案について、これまで試案検討会議でご意見をいただいていた内容などこれまでの検討状況について、ある程度市民の皆さんに公開できる状況となったことから、現時点での検討状況をまとめた資料でございます。

こちら最初のページですけれども、ここでは整備基本計画や、試案検討会議について説明しております。そのほか、平成29年に市民参画などを経て策定した新花巻図書館整備基本構想で定めた新花巻図書館の基本方針を説明しております。

次に、見開きを開いていただいて、2ページ目、3ページ目のところになりますが、こちらはこれまで新花巻図書館計画室で作成した試案について、この試案検討会議で委員の皆さんからご意見をいただいていた内容について、現時点で整理した内容であります、全体面積ですとか、本の冊数、そのほかスペースなどを数字やイラストを使ってわかりやすく説明しております。

次に3ページ目では、こちらでも会議でご説明しておりました開館時間や、新図書館での本の構成、そして宮沢賢治など展示資料について、どのように収集していこうと考えているかということをもとめております。

最後、閉じて4ページ目になりますが、こちらは「どんなサービスを受けることができるの」ということで、これから新花巻図書館で提供していきたいと考えている新しいサービスでしたり、拡充するサービスを説明しております。

なお、見開きのこの資料については、今回この試案検討会議でご意見をいただいた上で、今後市のホームページですとか、市内の図書館等の施設に配架することを検討しております。

以上で説明を終わります。

座長

はい。

市民の方に今の検討状況をお知らせするための資料ということで、新しい図書館の検討状況ということでもすけれども、これについて何かご質問、ご意見ございますでしょうか？

佐々木委員

何回もすみません。

今までできたんだけど、これからできなくなるものっていうのがもしあるのであれば、書いた方がいいと思いますけど、そういうのはないんですか。

新しくするとできなくなることが、もしあるのであれば、書いた方がいいんじゃないかということなんですけど。

事務局(梅原室長)

今の時点では、新しい図書館になることでなくすサービスは想定しておりませんので、拡充していくとか、新しく追加していくというふうに考えております。

佐々木委員

資料がなくなるというようなことも全然ないんですか。

要は、もう時代の変化があっというなくなるようなものでさえもないんですか。

事務局(梅原室長)

本の除籍は往々にして出てくると思いますし、学校や保育園に今文庫として持って行っている本の入れ替えも出てきますけれども、サービスの内容を減らしていくことは。(考えていません)

佐々木委員

はい、大丈夫です。

座長

他にございますでしょうか？

早川教授

富士大学の早川です。

2ページの④学習室とスペースと⑥のカフェスペース・多目的スペースなんですが、書き方をですね、今まで特にワークショップでたくさん意見が出たのははっきり記憶してるんですが、その中でたくさん意見が出た機能ですね、広場機能をですね、広場、今でも鮮明に覚えてるんですけど、高校生の方がですね、地元の企業の代表の人に来ていただいてはっきり本音で話し合いをしたいと。そういうのを新しくできる図書館でやりたいと、そういうようなですね今までにない機能が加わっていくのを、この表現の仕方なんですけども、学習室等って書くんですね、静かにシーンとして勉強するスペースが800平米になるのかっていうふうなとられ方もあると思うので、この⑤と⑥はもうちょっと、広場機能とですね、ワークショップで出たああいいう素晴らしいいろんな要望をもう一度ちょっと見返していただいて、いいネーミングがあればいいかなっていうふうに思いますので、この学習室の取り扱いとはちょっと結構慎重にしていた方がいいかなっていうふうに思いますので、よろしくお願ひします。

以上です。

事務局(梅原室長)

はい、こちらは表現等を工夫していきたいと思います。図書館ワークショップでは確かに、静かな部屋も必要だし、グループで学習する部屋や、ちょっと声を出してもいいような、仲間です使える部屋も必要というご意見もいただいていたので、そこはわかりやすく書いていきたいと思います。

ありがとうございます。

座長

他にございますでしょうか？

もうちょっと表現変えた方がいいとか。

前野委員

そういうことではないんですが、広報にこれを挟み込むことはできないんですか。

欲しい人だけが手に取るような形にはして欲しくなくて、市民全体に目を通していただきたい。

なので、広報にこれを挟み込んでいただくっていう、そういうことをしていただけるととてもいいかなと思います。特定の人だけが目にするということではないように、やっぱり市民のことでしたのでそう思うんですが、どうでしょうか。

事務局(梅原室長)

ありがとうございます。

検討していきたいと思います。広報にも相談しながら考えていきたいです。

小国委員

これを広報の記事にしてしまえばいいと思います。

事務局(梅原室長)

それも含めて検討します。ありがとうございます。

座長

広報の担当と話し合い、ちょっとこちらで勝手に判断できないものでしたので、検討させていただきます。

広報に載る前提で考えていただいても結構ですので、何か表現をもうちょっとこうの方がいいとかありましたらばお願いいたします。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

新しい図書館に自分たちの家で持っている寄贈する本、その辺はどういうふうになっているんでしょうか？よくわからないと思うんですね、市民の皆さん。どういう状況でそれを寄贈のか、どういう方法でそういう方法をとればいいのか、その辺がわかれば、やはりいろんなものが今ありますので、そういうのは全国展開するのではなくて、市民の皆さんにその広報の中で取り入れてくれるっていうそういうのもいいんじゃないかなと思います。

梅原室長

寄贈については、今の図書館でも寄贈の受付をしておりますので、ご相談いただければなと思っています。新しい図書館になるのに合わせて寄贈したいという方もいらっしゃると思うんですが、検討状況の資料の中に寄贈を含めるのではなくて、図書館で相談していただきたいです。今の図書館でも寄贈を受け付けておまして、花巻の図書館は結構寄贈がたくさん、郷土資料等もいただき蔵書している図書館ですので、そこで相談していただければなど。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

わかりました。

座長

今回の資料に載せなくても継続して募集しているのご理解願います。
他にございますでしょうか？はい、お願いします。

中村委員

検討会議の内容とかですね、これからの図書館利用について、大いに市民の皆さんにお知らせしてほしいと思います。

先ほど前野委員さんがおっしゃった通り、新しい図書館の検討状況、これを広報でお知らせしていただきたいと思います。全市民にお知らせしてほしいと思います。そういうことで積極的に花巻図書館のことについて、こういう状況になってますよとか、これからの図書館はこういう利用の仕方ができますよというふうな、市民の皆さんが夢を持てるような図書館利用を積極的に働きかけていただきたいと思います。

以上です。

事務局(梅原室長)

ご意見ありがとうございます。
広報担当とも相談しまして、検討していきたいと思います。
ありがとうございます。

座長

他にございますでしょうか？よろしいでしょうか？はい。

それでは議題3を終了いたします。以上で本日の議題としていた3件についてご意見をいただいたところですが、本日の内容につきまして、改めて確認をさせていただきます。

本日の議題3件については、いただいたご意見を踏まえまして、基本的に事務局の提案により実施するという点でよろしいでしょうか？はい。

では議事を閉じさせていただきます。不慣れな進行で申し訳ございませんでした。進行を事務局にお返しします。

事務局(高橋次長)

委員のみなさん、ありがとうございました。先ほど確認いただいた、今回提示した内容により引き続き作業を進めさせていただきたいと思います。

それでは次に次第3の報告「令和5年度新花巻図書館に関する要望等」に移りたいと思います。

令和5年度において新花巻図書館の整備に当たりましては、要望等をお受けしておりましたので、その状況について検討会議の委員のみなさんにご報告いたしたいと思います。

報告については、事務局より概要を報告いたしますので、その後本日オブザーバーとしてご参加いただいている団体の方からご説明をいただければと思います。

では、梅原室長、よろしくお願ひします。

事務局(梅原室長)

それでは、令和5年度新花巻図書館に関する要望等についてご報告いたします。

資料3をご準備いただければと思います。

初めに花巻病院跡地に新図書館を作る署名実行委員会の皆さんから令和5年11月27日に署名をいただいております。

請願事項は別途資料をご確認いただければと思いますが、「新花巻図書館の場所は旧花巻病院の市有地にしてください。新花巻図書館は宮沢賢治ゆかりの地を生かした図書館にしてください。新花巻図書館は市民の交流の場となる多目的スペースを備えた図書館にしてください。」ということです。

いただいた署名数は4730筆となっております。

次に、HANAMAKI Book Marksの皆さんから令和6年3月12日に同団体で市内の高校生の現状を知るために実施したアンケート結果について受領しております。

アンケートの詳細については別途資料をご確認いただければと思いますが、総回答数が924人で利用するならどちらがいいか、その他、新花巻図書館への関心度や欲しい機能などのアンケートを実施した結果について提出いただきました。

事務局(高橋次長)

それでは、各団体の皆様からの補足説明等ございましたらお願いしたいと思います。

まずは瀧さんの方からお願いできますでしょうか？

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

はい。先程もですね経過をお話いたしましたけれども、4,730筆数、これは2023年11月27日に提出した時点での数字でした。

5月8日現在は、7,836筆数でございます。その後も日々増え続けております。署名運動は、期限ありますのでその時期まで続ける予定でおります。

それから、先ほど私の説明もちょっと慣れないながらのお話をしましたが、花巻病院跡地に建設して下さい。私達が要望しているのは間違い無い方法です。

この熱意を逃さないように、盛り上がって行きますように常に要望しているところでございます。よろしく願いいたします。

事務局(高橋次長)

それでは照井さん、お願いしてよろしいですか。

照井氏(HANAMAKI Book Marks)

はい、ありがとうございます。

別途資料がちょっと長いので、アンケート概要、2ページのアンケート概要のあたりを見ていただけたらわかるかなと思うんですが、昨年度ですね、令和5年度にアンケートを行いまして、その結果を集計したものになります。

アンケートの方法はですね、高校の先生にご協力いただきましてマイクロソフトというコンテンツのフォームズという機能を利用しました。ただし無料版で行ったので、6校全部にお願いをしたんですけども、うまく情報が集められず、このような結果となってしまっていました。ですので今年も行う予定で、今準備をしております。

無料版で行ったので少し不備があったんですけども、それでも総回答数が924名ということで、一番多いのは花北青雲高校で403人、花巻北高校から197人、花巻南高校から272人、大迫高校から51人の回答をいただいております。その結果を集計したものになります。

前提としてお聞きして欲しいのですが、これはアンケート結果になりますので私達がこういうような、例えば見ていただくとわかると思うんですけども、建設地に関して花巻駅前が希望する声が多いというような結果が実際に出ているんですけども、先ほど申し上げましたように花巻駅前に建ててほしいからやったアンケートではないというところをご理解いただければと思います。その点少し説明不足といいますか、書き方によっていろいろな捉え方があるとは思いますが、私達としてはそのような目的を持って行ったものではないというところをご理解いただければと思います。

以上です。

事務局(高橋次長)

補足の説明もいただきましたが、今の報告についてご質問等ございませんでしょうか？よろしいでしょうか？

では、照井さん、お願いいたします。

照井氏(HANAMAKI Book Marks)

すいません、ちょっと瀧さんに質問がありまして、私署名というものがそもそもどういう定義でやるのかってというのがわかってないので質問になるんですけども、この3項目ある事項に関して全部に賛成した方が署名されているのか、それとも一つに賛成したら署名していいものなのかってというのがわからなくて、そこはどういうふうに集められたのかお聞きしてもよろしいですか。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

三つを要望してるっていう項目はあるんですけども、これ全て理解をして署名をしてくださいっていう意味ではないです。

やっぱり全国展開をしているっていうことを話をしましたけれども、ネット上の、ホームページの方からもブログからも、個人の方のからもあります。

それからこの署名に協力して頂いている方には、賢治研究会とか全国の名だたる方々の署名もご協力賛同を、頂いております。

そういうところの中でですね、やはり、全てこれは要望ですから、こういうふうに市民に示してくださいとか、行政にしてくださいとか、こういうのがあるんですけども、これは全てではないです。意見を、こういうふうに、そうですねって言った意見に対して署名をしていただいているというところですよ。

事務局(高橋次長)

よろしいですか。

照井氏(HANAMAKI Book Marks)

はい、ありがとうございます。

事務局(高橋次長)

他にご質問等ございませんでしょうか？

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

HANAMAKI Book Marks さんにちょっとお尋ねしたいんですけども、6校、これは署名をしたと、だけでもシステム上っていうんですか、これ4校しか集計の中に出なかったと、その2校を結局ボツになったわけですね、集計の数の中で。それをどういうふうに考えますか。

照井氏(HANAMAKI Book Marks)

はい。集約方法について、まずご説明しますと、マイクロソフトのフォームズというものがありまして、基本的に Google で行ってたんですけども、学校の教育機関の関係で Google は使えなくてマイクロソフトのみの使用となったので、マイクロソフトのフォームズという機能を利用しました。こちらは署名というわけではなくて、匿名で行っております。個人名をいただくものではなくて、全部個人名はいただいております。学校名と学年と住んでいる地域はお聞きしました。

無料版というところについての説明なんですけれども、一つのアンケートを皆さんに同じアンケートを投げたんですね、花巻北高校、南高校、東高校、青雲高校、大迫高校ですね。何か取りこぼさないかな。高校と、あと富士大学でも取りました、実は。ですが無料版の場合ですね、1回の回答、集められる上限数が200件となっていたんですね。なので1校というか、全部の学校さんに同じ日にお渡しして、配られた日は違うとは思いますが、回答200件ももらったら、いただいたデータを別のところにコピーペースト、ペーストをして、またその集まったデータベース0にして、集まったものをまたペーストしてっていうものの繰り返しだったんですね。なので私達もどのようなペースで生徒さんが回答してくださるかっていうのがわからなかったんで、取りこぼした情報がたくさん、アンケートありまして、実際に出した後に確認してみたら富士大学さんから197件集まったりとかはしたんですけど、出す前に、受付後、意見をまとめた後にいただいてしまったものだったので、そちらをちょっと取りこぼしてしまったというか、報告まで至らなかったというような形になりますので、ちょっとその集約方法でちょっとミスをしてしまったっていう部分があったので、あくまで今回は青雲高校さんがすごく多い規模ではあるんですけども、大迫高校さんからほとんどの生徒さんからいただいた割合だったりとかするので、今回はちょっと集約方法を見直しをして、今年度また行おうかなと思いますので、できるだけ取りこぼしのないというか、私達の目的としては、高校生、大学生を中心とした若者の意見をまとめて、市に提出するというようなところが目的なので、その上で高校と大学さんにお話を聞きたいという目的で行ったアンケートになります。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

やり取りで申し訳ございません。これNo.2のところですね、アンケートをお願いしている二次元コードがあるんですね。回答はこちらからっていう、これについて一般の人たちもこうすることはできるんですか。

照井氏(HANAMAKI Book Marks)

こちらはですね、昨年度行ったものなのでこちらは高校さんに限定でお配りしたものになります。見ていただくとわかるとおり、2のアンケート方法にあります、左側の「アンケート調査のご依頼」と書いたPDFがあるんですけども、こちらは先生方に生徒にこういうふうに告知していただきたいですという依頼書としてお願いしたのが左側の書類になります。実際に生徒に渡していただいたのは、右側のアンケートのお願いというような黄色を基調としたチラシになります。そちらを学生さんに読み取っていただくと回答ができるような形なんですけれども、所属高校と学年が必須項目になってましたので、そちら該当しない方は答えられないような内容にはなっていました。

今年度はいろんな方法を考えてますので、一般の方も答えられるようなフォームズを作成しようと思って今準備中でございます。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

はい、わかりました。

事務局(高橋次長)

よろしいでしょうか？

それでは委員の皆さんからその他に入りたいと思いますが、その他何かございますでしょうか？

中村委員、どうぞ

中村委員

新花巻図書館-まるごと市民会議代表の中村です。

5月1日付けで新花巻図書館計画室室長宛てに新図書館計画室への質問ということで4項目の質問状を提出いたしました。

一つは新図書館整備基本計画の最終案を早期に策定して市民に提示してくださいというお願いですし、二つ目は、第二次花巻市まちづくり計画と新図書館基本計画との整合性についてということで、まちづくり計画と新花巻図書館の基本計画をどのように関連付けるのかいうところをお聞きしたいと、それから三番目に令和4年から5年にかけて新図書館計画室の業務内容、いろいろ市民ワークショップとか、計画室設置から3年、4年経っておるわけですが、未だに新図書館の概要とか基本計画の進捗状況が不透明であるということで市民の皆さんの関心、理解、期待感が薄れてきているということです。

さらには、去年は1年以上も試案検討会議が開催されておられません。そういうことで、積極的にこの計画室のホームページとか広報はなまきを通じて、今の進捗状況を花巻市民の皆さんにお伝えしていただきたいということです。というお願いです。

それから四番目、市民参画を活用して整備を進める考えや予定はありますかという、いわゆる一般市民の皆さんの意見をお聞きしながら整備事業を進めていくという考えは今後あるかどうかということで、私どもとすれば、理想的な図書館をテーマにした市民シンポジウムの企画とかですね、それからあと、またいろんな図書館の企画展を行うとか、そういったものを期待しておりますということで、我々も市民レベルで花巻図書館に関心を持つような行動をとっていきたいと思いますので、計画室および各花巻市立図書館の皆さんの事務局的な一般市民に働きかけをお願いしたいということですということで、以上の4点について質問したいということなんですが。

事務局(高橋次長)

中村委員、皆さんに配布しているこちらの資料の中に書かれている質問ということでよろしいでしょうか？

中村委員

そうです。

なかなかね、まるごと市民会議の会報の中に質問の内容を書いておりますので、これについてお答え願いたいということです。

事務局(梅原室長)

はい。ではお答えしていきたいと思います。

今いただいた質問については、皆さんのお手元にある、ビブリオはなまき通信の見開き、開いたところにございますので、順番にお話していきたいと思ます。

まず最初に、新図書館整備基本計画の最終案を早期に策定して市民に提示して欲しいというご質問については、この基本計画についてはこれまでもご説明させていただいておりましたけれども新花巻図書館整備基本構想の新花巻図書館整備に関する方針のうち、建設場所に関する方針について、候補地を数ヶ所選定した上で、基本計画において場所を定めることとしますというふうに示している通り、建設場所を選定した上で基本計画案を策定し、花巻市市民参画共同推進委員会でお認めいただきました市民参画の手法により、市民参画を実施した上で、教育委員会議などの審議を経て策定されるものと考えております。

図書サービスなど機能面の基本計画試案については、試案検討会議で委員の皆さんにご意見をいただいているところでありまして、今日も概要版見ていただいたんですけども、会議終了後にはこの内容を確認いただいて、早川先生からアドバイスいただいた部分を直した上で、市のホームページ等で公開していきたいと思ますし、あと試案検討会議で話し合った機能面の基本計画試案については、会議終了の度に市ホームページ等で公開しております。

開館までの具体的なスケジュールについては、合併特例債を活用とした場合には、その発行可能期限が一定の目安になると考えておりまして、合併特例債については、現時点の新市建設計画においては、令和7年度までの実施が必要でございますが、これを延長した場合には、令和12年度までに実施する事業に充当することができますことから、合併特例債を活用とした場合、現在検討しているスケジュールでは、令和11年ごろの建物本体の完成、そして令和12年の開館、そういったものを目指しております。

詳細なスケジュールについては、基本計画策定後の基本設計が終了した段階でお示しできるのではないかと考えております。

次に、第2次花巻市まちづくり計画と新花巻図書館整備基本計画との整合性についてというご質問ですが、こちらについて、新花巻図書館整備基本計画とその他の市の計画の関係性については第7回の試案検討会議においてご説明しておりましたとおり、試案の第1章1-4「この基本計画の位置づけ」という項目がありましたが、そこで整理して図で示しております。

なお、総合計画は市のまち作りの方向性や将来性を示すもので、市の最も重要な計画であり、総合計画長期ビジョンでは、長期ビジョンとアクションプランで構成しておりますが、長期ビジョンは本市の将来都市像を掲げ、その実現に向けて取り組む政策の方向性を示すものになっております。

その中で新花巻図書館については、生涯学習の推進、これは子育て人づくりの部分に掲げておりますけれども、その中で生涯学習施設については計画的に改修するとともに、新花巻図書館の建設を進めますと記載しておりますので、建設を進めることを施策の方向性として記載しているものです。

三つ目の令和4年から5年の新図書館計画室の業務の内容についてというご質問についてですが、試案検討会議において、新しい図書館のサービスでしたり機能などについて、令和3年度から4年度にかけてご意見を伺ってきたところでありますが、令和4年度においては、それまで議論してきた機能を備えた図書館にふさわしい建設場所を検討し、これらの内容についてはその都度ホームページでも紹介してきております。

また、試案の概要と建設場所については市民説明会や団体への説明もしてきております。

整備基本計画については、サービスや機能などのソフト面については一通りご意見をお聞きしたところであり、令和5年度は建設場所について定める必要がありましたので、候補地の一つであるJR東日本盛岡支社との協議を重ねてきたところです。

JR東日本盛岡支社はスポーツ用品店敷地について、市民を含めた市の意向が明確になった時点、段階で具体的な条件について話し合うとされていましたが、二つの候補地について意見を集約できないことを伝えまして、再度市民に示すための比較資料を作成する調査を実施する前提として、スポーツ用品店敷地とその付帯する土地全てを市に譲渡いただく協議に応じてはいただけないかと申し入れまして、そのような場合における条件提示について、盛岡支社の方で建設場所として決定しない状況の中、土地を譲渡する場合の価格の検討や、鉄道保守用の管理通路を切り替える場合の支障物件の調査など、そういったものの調査を経まして、工事費等を積算いただいて、去年の秋頃に提示を受けたところです。

なお、令和5年度については、JR東日本との協議を重ねておりましたので、試案検討会議については開催してこなかったところですが、JR東日本盛岡支社からの提示を受けて、去年の11月24日に第13回の試案検討会議を開催しまして、双方の建設候補地について比較資料を作成する業務を委託することについてご了承をいただいたところです。

また、年明けて1月30日に開催した第14回の会議においては、試案に示す基本方針の3項目について、現在市で考えている具体的な内容を先進事例の写真を用いて提示したところでありまして、新しい図書館について市民の皆さんに具体的なイメージを持っていただくためにも、ホームページに掲示してお知らせしていきたいということをご説明しまして、委員の皆様からは今までは文字が多かったのですが、文字だけでなく具体的なイメージを持つことができるので、市民に示すことはいいことではないかといったようなご意見をいただきましたので、ポータルサイトを検索しやすいように修正した上で、ホームページなどに掲載しております。

以上のとおり、計画室の業務内容なんですけれども、今ご説明した通り、建設候補地選定に向けた協議を重ねていましたし、あとは第14回の検討会議でお示した通り、開館時間のシミュレーションだったり、新図書館の司書採用に向けた人員配置のシミュレーションを行っておりますし、また新図書館整備に向けて、蔵書計画なども検討していく必要がありますので、現図書館の資料の状況について確認しまして、一部再整理や登録作業が必要な資料がございますので、今、現図書館と連携してそうした資料の整理や今後の諸資料について、作業を進めているところで、そしてこの蔵書に関する検討をして、今日もお示ししてきたところでございます。

こういったように、ご質問あった令和5年度の業務は、試案検討会議の皆さんから意見をいただきながら、中身の部分、図書サービスでしたり機能について一定の方向性が整理できたのではないかなと思っています。

今日ご意見いただきました概要版、A3見開きのもの、それも方法等で一般の市民の皆さんにお知らせできるような方法をちょっと検討しながら行っていきたいなと思っていました。

最後に、市民参画を活用して整備事業を進める考えや予定はありますか、これについては、市では、市民参画については、花巻市まちづくり基本条例第12条で、「市の執行機関はまちづくりに関する重要な計画の策定および変更並びに条例等の制定改廃に当たっては、市民が自らの意思で参画できる方法を用いて、市民が意見表明する機会を保障するものとします。」としておりまして、また第2項では、「市民の参画については、別に条例を定めるものとします」としており、同条例第13条でその方法として、

意向調査の実施、パブリックコメント、意見交換会の開催、ワークショップ、審議会その他の附属機関における委員の公募等を定めている他、令和5年12月に7本のうち市民参画条例により、市政への市民参画に関する基本的な事項を定めているところです。

新花巻図書館の整備に係る基本計画については、同条例第5条に公共の用に供される大規模な市の施設の計画の策定または変更として市民参画の対象として定められておりますので、基本計画策定に係る市民参画の手法については、花巻市市民参画協働推進委員会において、花巻市立図書館協議会での審議とパブリックコメントの実施、説明会の開催が承認されておりますことから、今後、基本計画案の策定後にこれらを実施してまいりたいと考えております。

これは、なお、現時点で基本計画は試案の段階でありますので、今後変更となる場合もありますが、試案検討会議でもお話がありましたとおり、今後基本設計等を実施して、より具体化する段階で様々な機会を設けて市民の皆様の意見をお伺いしていきたいと考えております。

あと、先ほどお話あったように、市民の皆さんの機運を盛り上げていくために、現図書館での企画展だったりシンポジウムだったりというご意見もありましたが、図書館での企画展等は図書館と相談しながら検討してまいりたいと思います。

以上です。

事務局(高橋次長)

よろしいでしょうか？時間もだいぶ超えております。申し訳ございません。

最後になりますが、次回の会議予定ですが、先ほど議題2の部分のスケジュールでお示しさせていただきまして、今後、議会等で議決を経てプロポーザル方式で業者選定後の後の開催を予定しております。

目安としては8月と考えておりますが、詳細日程につきましては改めて事前に日程調整のうえ確定したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第15回新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を終了いたします。本日は長時間にわたりありがとうございました。